



Interviewer
サムライ日本プロジェクト
総合プロデューサー
株式会社DDR
代表取締役
安藤 竜二

おかざき
匠の心
OKAZAKI TAKUMI no KAI

「長岡和慶仏所」
長岡 和慶
wakei nagaoka

長岡 和慶

石彫家・大仏師

仏像には生命が宿り、
呼吸をはじめめる瞬間があるんです。

長岡さんが石彫刻の世界に入ったのは兄の勧めがきっかけだった。その後、兄弟で頭角を現し、石材業界では国内外初となる「大仏師」の称号を、三井寺と三千院から受けるまでになる。作品は、国内では東大寺や比叡山延暦寺、三井寺、永平寺、皇室菩提寺の泉涌寺などの有名寺院に、海外ではイギリスの大英博物館やドイツの州立ライプチヒ民族博物館にも収蔵される。著書や作品集の出版や美術雑誌への掲載など、華やかな経歴の影には、一寸の妥協をも許さないこだわりの姿勢があった。

——出身は北海道滝川市ということですが、どのような縁で岡崎に。

高校卒業後、札幌にて就職しましたが、石彫刻の修行をしていた兄から、石の本場である愛知県岡崎市で仏像彫刻の修行をしないかと誘われました。はじめは気が進まず、逃げていましたが、熱心な兄の勧めに負け、思い切って岡崎に出てきたのが22歳の時でした。

——石仏彫刻の世界はどのようなものですか。

石仏彫刻は原石を削り、引いていく「マイナス」の世界であり、この点が、粘土など加えていく「プラス」の世界とは明らかに異なります。一度削り落としたものは、二度と元には戻りません。しかし、石と対峙しても臆することなく、大胆に粗取りを始めることが大事で、完成にかけては、逆に呼吸を整え、気を落ち着けて仕上げます。

——日本で仏像は木彫が主流だったそうですが。

日本は古来から木が豊富で、木彫刻が盛んに作られてきましたが、近年の石工具の発達により、木彫刻以上の作りが可能になったと思います。